

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 9 月 25 日現在

機関番号：12102

研究種目：新学術領域研究(研究領域提案型)

研究期間：2012～2016

課題番号：24101009

研究課題名(和文)バビロニア・アッシリアの「政治」と「宗教」 領土統治における神学構築と祭儀政策

研究課題名(英文)Politics and religion in Babylonia and Assyria

研究代表者

柴田 大輔 (SHIBATA, Daisuke)

筑波大学・人文社会系・准教授

研究者番号：40553293

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,100,000円

研究成果の概要(和文)：現在の西アジア諸国において戦争・政争を引き起こす重要なファクターとしてイスラームの政教問題が挙げられる。西アジア政教問題の重要性は万人が認めるところだが、一方でこの問題は単なる現代情勢の一端として表層的に扱われ、しかも紋切り型の説明で片付けられることも多い。本研究は、文明が発祥した古代からイスラーム政権が欧米列強と対峙する近現代にいたる長い歴史を射程に入れ、政教問題がたどった錯綜した系譜の解明を目指した。ユダヤ・キリスト教社会、紋切り型の説明を作ってきた近現代西欧のオリエント学者たちが西アジアに向けた「眼差し」も批判的に検討したうえで、西アジア政教問題に関する新しい見取り図の提示を目指した。

研究成果の概要(英文)：The aim of our project is to study the genealogy of politics and religion in West Asia (the so-called Near/Middle East). The project covers antiquity to the modern era at a macro-historical level. Taken into consideration are not only Islamic society and Pre-Islamic antiquity, but also Jewish and Christian societies, which have symbiotically cohabitated with Islamic society under the rule of various Islamic polities from the medieval to the modern period in West Asia, and the discourse of the modern Western Orientalists, which shaped the conventional historiography of West Asia, including the issue of politics and religion. Using interdisciplinary joint research, the project provides a new description of this problem. The main result of our project is published as a monograph.

研究分野：楔形文字学

キーワード：西アジア 政教関係 宗教概念 ユダヤ教 キリスト教 ライシテ イスラーム 一神教

1. 研究開始当初の背景

現在の西アジア（中東）諸国では全世界が注視する戦争と政争が巻き起こっているが、それら戦争・政争を引き起こす重要なファクターとして政治と宗教をめぐるイスラームの政教問題が挙げられる。西アジア政教問題の重要性は万人が認めるところだが、一方でこの問題は単なる現代情勢の一端として表層的に扱われ、しかも「イスラーム独自の政教一致」などという紋切り型の説明で片付けられることも多い。

西アジア政教問題の研究がイスラームに限定される傾向をもたらしした要因の一つは、ディシプリンとしての西アジア史研究の分断に求められる。今尚、西アジア（中近東）地域の歴史を扱う「西アジア史」というディシプリンは一部の特異な研究機関にしか存在しない。確かに日本でも現在では古代から近現代にいたる西アジアの歴史を研究・教育する環境がある程度整いつつあるが、このような日本の学界において西アジアの古代研究は「古代オリエント史」などと呼ばれるディシプリンを形成し、一方、中世以降は主として「イスラーム世界」の歴史をあつかう「イスラーム（世界）史」の範疇とされ、それを「ユダヤ史」や「キリスト教史」が補う体制になっている。さらに、日本の大学では「古代オリエント史」が「西洋史」に組み込まれる一方、「イスラーム史」の方は「東洋史」に入っており、西アジア史研究が分断した状況になっている。

2. 研究の目的

本研究は、西アジア政教問題の歴史を説き起こす。メソポタミアやエジプトに文明が発祥した古代からイスラーム政権が欧米列強と対峙する近現代にいたる長い歴史を射程に入れてこの問題がたどった錯綜した系譜を解き明かす。西アジアにおいてイスラームとともに長く共存してきたユダヤ・キリスト教社会、そして、紋切り型の説明を作ってきた近現代西欧のオリエント学者たちが西アジアに向けた「眼差し」も批判的に検討したうえで、西アジア政教問題に関する新しい見取り図の提示を目指した。研究成果は個別の論考にまとめたほか、幅広い層の読者に向けた和文研究書を公刊する。

3. 研究の方法

新石器時代から現代に至る西アジア史の各時代・地域の専門家が協働で研究を推進した。さらに、現在人口に膾炙している説明を鑄造した近代西欧の学者の視点自体も対象化するため、近現代ヨーロッパ宗教史の専門家も参画した。研究課題と担当者は

次の通り（括弧内の氏名が担当者）：近現代西欧のアカデミズム（伊達聖伸）、先史時代の西アジア（久米正吾・下釜和也・有松唯）、古代メソポタミア（柴田大輔）、古代エジプト（河合望）、古代イスラエル（長谷川修一）、古代西アジア物質文化（津本英利）、捕囚期・捕囚後のユダヤ・ユダヤ・コミュニティ（高井啓介・渡井葉子）、古代末期の一神教団（青木健）、中世初期のイスラーム政権（亀谷学）、中世後期のイスラーム政権（中町信孝）、中世ユダヤ・コミュニティ（嶋田英晴）、中世キリスト教コミュニティ（辻明日香）、オスマン帝国（上野雅由樹）、近現代アラブ政権（鈴木恵美）。

研究は、個別研究と全体を俯瞰したマクロな研究を同時に進めた。研究は定期的開催する研究集会を基軸に行った。研究分野間の比較を可能にするため、それぞれの分野の先行研究における枠組みと鍵になる語彙の用語法自体を批判的に整理・検討した。研究集会は、上記担当者によるインターナショナルな研究発表の会、本研究の課題に関連する問題に取り組む専門家をゲストスピーカーに招いた会、そして公開のシンポジウムなど。

4. 研究成果

（1）研究集会

研究の開始から終了までに11回のワークショップと2回のシンポジウムを開催した。詳細は下記の通り。

第1回ワークショップ 日時：2012年12月12日、会場：筑波大学東京キャンパス、発表者：柴田大輔・河合望

第2回ワークショップ 日時：2013年2月18日、場所：筑波大学東京キャンパス、発表者：柴田大輔、コメンテーター：伊達聖伸

第3回ワークショップ 日時：2013年6月21日、場所：筑波大学東京キャンパス

第1回シンポジウム「西アジア・北東アフリカ史における「政治」と「宗教」再考」

日時：2013年7月26日、場所：筑波大学つくばキャンパス、パネリスト・発表題目：伊達聖伸「『政治』と『宗教』の関係の諸類型：近現代ヨーロッパのライシテの視点から」、河合望「古代エジプトにおける『政治』と『宗教』」、中町信孝「中世イスラーム時代の『政治』と『宗教』」、鈴木恵美「『アラブの春』後の『政治』と『宗教』」、コメンテーター：柴田大輔

第4回ワークショップ 日時：2014年3月9日、場所：筑波大学東京キャンパス、発表者：羽田正（東京大学東洋文化研究所）

第5回ワークショップ「西アジアにおける宗教伝統の継承と変遷～西洋史と東洋史の

断絶を超克する～」日時：2014年11月23日、場所：早稲田大学、発表者・題目：青木健「古代末期オリエントの宗教からイスラームへ」、コメンテーター：亀谷学、有松唯、柴田大輔

第6回ワークショップ「西アジア史における「政治」と「宗教」～中世イスラーム世界とユダヤ世界～」日時2015年3月8日、場所：筑波大学東京キャンパス、発表者・題目：亀谷学「初期イスラーム時代における統治とその理念」、嶋田英晴「中世イスラーム世界におけるユダヤ自治」、コメンテーター：中町信孝

第7回ワークショップ 日時：2015年7月12日、場所：筑波大学東京キャンパス、発表者：柴田大輔

第8回ワークショップ「古代西アジア・北東アフリカ史における「政治」と「宗教」再考」日時：2015年10月25日、場所：筑波大学東京キャンパス、発表者・題目：柴田大輔「メソポタミア」、河合望「エジプト」

第9回ワークショップ「西アジア・北東アフリカ史における「政治」と「宗教」～古代・中世のキリスト教を例として～日時2015年11月21日、場所：早稲田大学、発表者・題目：戸田聡「政治と宗教の関係 4世紀のキリスト教を例に」、辻明日香「イスラーム期以降キリスト教社会における「政治」と「宗教」：コプト教会の例」

第10回ワークショップ「イスラーム世界の政治指導者像を考え直す」日時：2015年12月19日、場所：早稲田大学、発表者・題目：亀谷学「カリフ像 - 形成と展開」、鈴木恵美「近現代アラブ世界における世俗的指導者像」

第11回ワークショップ 日時：2016年6月12日、場所：筑波大学東京キャンパス

第2回シンポジウム「西アジアにおける政教問題の系譜」日時：2016年7月10日、場所：筑波大学東京キャンパス、パネリスト・発表題目：柴田大輔「古代西アジア世界における「一神教団」成立の背景」、高井啓介・渡井葉子「捕囚期におけるバビロニアのユダ共同体と一神教」、青木健「古代末期の一神教団」、亀谷学「中世初期のイスラーム政権」、中町信孝「中世後期における政教関係とウラマーの知」、嶋田英晴「中世イスラーム支配下のユダヤ社会の変容」、上野雅由樹「オスマン帝国における「宗教」の領域化」、鈴木恵美「近現代アラブ地域における政治と宗教：エジプトを事例に」、伊達聖伸「「宗教的なもの」をとらえ返す近現代フランスと「西アジア」に対する眼差し」

(2) 研究書

これら研究集会を通じて得られた主な知見を和文の研究書にまとめた。研究書は現在編集中で、今年度中に勁草書房から出版される。A5判、縦書き、370頁を予定。構成は下記の通り（章題は全て仮）。

『西アジアの宗教と政治の系譜』（仮題）

はじめに

第一部 西アジア政教問題を見つめる眼差し

1章 「宗教的なもの」をとらえ返す近現代フランスと「西アジア」に対する眼差し：マルセル・ゴージェ、ルイ・マシニョン、ムハンマド・アルクーン（伊達聖伸）

2章 西アジア史研究の学的分断（柴田大輔）

第二部 古代の国家・神殿・知識人

3章 先史時代の西アジア（久米正吾・下釜和也・有松唯）

4章 古代メソポタミアの政教問題（柴田大輔）

5章 古代エジプトの政教問題（河合望）

6章 物質文化からみる古代西アジア（津本英利）

第三部 一神教団の成立へ

7章 古代イスラエルの政教問題（長谷川修一）

8章 捕囚期におけるバビロニアのユダ共同体と一神教（高井啓介・渡井葉子）

9章 古代末期の一神教団（青木健）

第四部 「イスラーム誕生」のインパクト

10章 初期イスラーム時代における政治と宗教：その「分化」をめぐる（亀谷学）

11章 中世後期における政教関係とウラマーの知（中町信孝）

12章 中世イスラーム支配下のユダヤ教徒（嶋田英晴）

13章 中世イスラーム支配下のキリスト教徒（コプト教会）（辻明日香）

第五部 西欧との対峙

14章 オスマン帝国期の宗教概念と政教関係（上野雅由樹）

15章 近現代アラブ地域における政治と宗教（鈴木恵美）

おわりに

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計40件）

1. Kawai, N. (in press) "Tutankhamun in Heliopolis," in: *Studies in Honor of Faiza Haikal*, Abercrombie Press 【査読あり】

2. Shibata, D. (in press) "Die sumerischen exegetischen Epitheta des Marduk," in: M. Lang et al. (eds.), *Sprachsituation und*

Sprachpolitik – Mehrsprachigkeit im Altertum, Ugarit-Verlag 【査読あり】

3. Shibata, D. (in press) “Middle Assyrian Legal Documents of Adad-bēl-gabbe II, King of the Land of Māri,” in: D. Prechel and H. Neumann (eds.), *Festschrift für Helmut Freydank*, Ugarit Verlag 【査読あり】

4. Kume, S., Y. Miyata and S. Kadowaki (2017) “Feasting with the Dead on the Euphrates: Stable Isotope Analysis of Carbonized Residues on Early Bronze Age Ceramics from the Cemetery near Tell Ghanem al-‘Ali,” in: Y. Nishiaki and S. Kume (eds.), *Special Volume. Papers in honor of Professor Katsuhiko Ohnuma on the Occasion of his 70th Birthday*, *Al-Rafidan* 38, 95–100 【査読なし】

5. Shibata, D. (2017) “An Expedition of King Shalmaneser I and Prince Tukultī-Ninurta to Carchemish,” in: Y. Heffron, M. Worthington and A. Stone (eds.), *At the Dawn of History: Ancient Near Eastern Studies in Honour of J. N. Postgate*, Eisenbrauns, 491–506 【査読あり】

6. Shibata, D. (2017) Review of Beate Pongratz-Leisten, *Religion and Ideology in Assyria*, Studies in Ancient Near Eastern Records Vol. 6, xviii, 553 pp., Boston and Berlin: Walter de Gruyter, 2015, *The Bulletin of the School of Oriental and African Studies* 80/1, 128–130 【査読あり】

7. 河合望 (2017) 「古代エジプト史研究の最前線 ツタンカーメン (トウトアンクアメン) 王時代の歴史を再構築する」『歴史と地理 世界史の研究』250号 (『歴史と地理』通巻701号) 49-52頁【査読あり】

8. Llop, J. and D. Shibata (2016) “The Royal Journey in the Middle Assyrian Period,” *Journal of Cuneiform Studies* 68, 67–98 【査読あり】

9. Shibata, D. (2016) “The Local Scribal Tradition in the Land of Māri and Assyrian State Scribal Practice: Paleographical Characteristics of Middle Assyrian Documents from Tell Ṭābān,” in: S. Yamada and D. Shibata (eds.), *Cultures and Societies in the Middle Euphrates and Habur Areas in the Second Millennium BC*, Vol. 1: *Scribal Education and Scribal Traditions*, *Studia Chaburensia* 6, Harrassowitz Verlag, 99–118 【査読あり】

10. Ueno, M. (2016) “Religious in Form, Political in Content? Privileges of Ottoman Non-Muslims in the Nineteenth

Century,” *Journal of the Economic and Social History of the Orient* 59, 408–441 【査読あり】

11. 青木建 (2016) 「サーサーン朝ペルシアと東方のヘルメス主義」『説話・伝承学』第24号【査読あり】

12. 伊達聖伸 (2016) 「フランスにおける「承認のライシテ」とその両義性 ムスリムの声は聞こえているか」磯前順一・川村覚文編『他者論的転回 宗教と公共空間』ナカニシヤ出版、175–200頁【査読なし】

13. Kawai, N. (2015) “The Administrators and Notables in Nubia under Tutankhamun,” in: R. Jasnow and K. Coonery (eds.), *Joyful in Thebes. Egyptological Studies in Honor of Betsy M. Bryan*, Material and Visual Culture of Ancient Egypt 1, Lockwood Press, 309–322 【査読あり】

14. Shibata, D. (2015) “Dynastic Marriages in Assyria during the Late Second Millennium B.C.,” in: B. Düring (ed.), *Understanding Hegemonic Practices of the Early Assyrian Empire: Essays Dedicated to Frans Wiggermann*, *PIHANS* 125, Nederlands Instituut voor het Nabije Oosten, 235–242 【査読あり】

15. Shibata, D. (2015) “Hemerology, Extispicy and Ilī-padā’s Illness,” *Zeitschrift für Assyriologie und Vorderasiatische Archäologie* 105, 139–153 【査読あり】

16. Ueno, M. (2015) “Urban Politics in 19th-Century Istanbul: The Case of the Armenian Cemetery in Beyoğlu,” in: H. Kuroki (ed.), *Human Mobility and Multi-ethnic Coexistence in Middle Eastern Urban Societies*, Tokyo, 85–102 【査読あり】

17. 柴田大輔 (2015) 「アッシリアにおける国家と神殿 理念と制度」『宗教研究』89巻2輯、71-105 (269-295)頁【査読あり】

18. 伊達聖伸 (2015) 「フランスにおけるイスラームの制度化と表象の限界 宗教を管理するライシテの論理」『ODYSSEUS』別冊2、35～57頁【査読なし】

19. 伊達聖伸 (2015) 「イスラームはいつ、いかにしてフランスの宗教になったのか」『宗教研究』383号、107–132頁【査読あり】

20. Fahmy, A., N. Kawai and S. Yoshimura (2014) “Archaeobotany of Two Middle Kingdom Cult Chambers at North Saqqara, Egypt,” in: C. J. Stevens et al. (eds.), *The Archaeology of African Plant Use*, Institute of

Archaeology, University College London
Publication, Left Coast Press, 141–149【査読あり】

21. Hasegawa, S. (2014) “The Conquests of Hazael in 2 Kings 13:22 in the Antiochian Text,” *Journal of Biblical Literature* 133, 61–76【査読あり】

22. Hasegawa, S. (2014) “Clumsy or Talented? The Fluctuation of the First and the Third Person in the Text on the Tell al-Rimāh Stela,” *Orient* 49, 19–29【査読あり】

23. Kawai, N. (2014) “The New Kingdom Tomb Chapel of Isisnofret at Northwest Saqqara,” in: J. Kondo (ed.), *Quest for the Dream of the Pharaohs. Studies in Honour of Sakuji Yoshimura*, Supplément aux annales du service des antiquités de l’Égypte Cahier no. 43, Cairo, Ministry of Antiquities, 69–90【査読あり】

24. Shibata, D. (2014) “A Note on the Bilingual Inscription of Šamaš-šumu-ukīn, RIMB 2, B.6.33.1,” *Orient* 49, 85–88【査読あり】

25. 長谷川修一 (2014) 「歴代誌のイエフイエフはアハズヤを殺害したか (歴代誌下 22 章 7-9a 節)」『聖書学論集』46 号, 115–138 頁【査読あり】

26. 中町信孝 (2014) 「アラブの歴史書と歴史家 マムルーク朝時代を中心に」小杉泰・林佳世子編『イスラーム 書物の歴史』名古屋大学出版会【査読あり】

27. 中町信孝 (2014) 「バドルッディーン・アイニーの職業的キャリア マムルーク朝ウラマーの一事例 (2)」『甲南大学紀要. 文学編』164, 237–248 頁【査読なし】

28. Kawai, N. (2013) “Some Remarks on the Funerary Equipment from the tomb of Amenhotep III (KV 22),” in: P. P. Creasman (ed.) *Archaeological Research in the Valley of the Kings and Ancient Thebes*, Wilkinson Egyptology Series 1, University of Arizona Egyptian Expedition, 149–172【査読あり】

29. Nakamachi, N. (2013) “Life in the Margins: Shihāb al-Dīn Aḥmad al-‘Aynī, a Non-Elite Intellectual in the Mamlūk Period,” *Orient* 48, 95–111【査読あり】

30. Numoto, H., D. Shibata, and S. Yamada (2013) “Excavations at Tell Taban: Continuity and Transition in Local Traditions at Ṭābatum/Ṭābetu During the Second Millennium B.C.,” in: D. Bonatz and L. Martin

(eds.), *100 Jahre archäologische Feldforschung in Nordost-Syrien – Eine Bilanz*, Schriften der Max Freiherr von Oppenheim-Stiftung 18, Harrassowitz Verlag, 167–179【査読あり】

31. Shibata, D. (2013) “The Toponyms, ‘Land of Māri,’ in the Late Second Millennium B.C.,” *Revue d’assyriologie et d’archéologie orientale* 105, 95–108【査読あり】

32. Shibata, D. (2013) “The Origin of the Dynasty of the Land of Māri and the City-god of Ṭābetu,” *Revue d’assyriologie et d’archéologie orientale* 105, 165–180【査読あり】

33. Ueno, M. (2013) “‘For the Fatherland and the State’: Armenians Negotiate the Tanzimat Reforms,” *International Journal of Middle East Studies* 45, 93–109【査読あり】

34. 河合望 (2013) 「スメンクカラー王に関する覚書」『永遠に生きる - 吉村作治先生古稀記念論文集』中央公論美術出版社, 119–134 頁【査読なし】

35. Hasegawa, S. (2012) “Looking for Aphek in 1 Kgs 20,” *Vetus Testamentum* 62, 501–514【査読あり】

36. Hasegawa, S. (2012) “The Historiographical Background for Jehu’s Claim as the Murderer of Joram and Ahaziah,” *Annual of the Japanese Biblical Institute* 37, 5–17【査読あり】

37. Kawai, N. (2012) “The Tomb of Isisnofret at Northwest Saqqara,” in: M. Bárta, F. Coppens, and J. Krejčí (eds.), *Abusir and Saqqara in the Year 2010*, Czech Institute of Egyptology, 497–511【査読あり】

38. Kawai, N., K. Takahashi and K. Yazawa (2012) “Middle Kingdom Pottery from Waseda University Excavations at Northwest Saqqara 2001–2003,” in: R. Schiestl and A. Seiler (eds.), *Handbook of Pottery of the Egyptian Middle Kingdom, Volume II. The Regional Volume*, Österreichischen Akademie der Wissenschaften, 2012, 147–160【査読あり】

39. Shibata, D. (2012) “Local Power in the Middle Assyrian Period: The ‘Kings of the Land of Māri’ in the Middle Habur Region,” in: G. Wilhelm (ed.), *Organization, Representation, and Symbols of Power in the Ancient Near East, Proceedings of the 54th Rencontre Assyriologique Internationale*,

20–25 July 2008, Eisenbrauns, 489–505 【査読あり】

40. 長谷川修一 (2012) 「西アジア考古学における発掘報告書出版の重要性」『西アジア考古学』第13号、81–86頁【査読あり】

〔図書〕(計5件)

1. Yamada, Y. and D. Shibata (eds.) (2016), *Cultures and Societies in the Middle Euphrates and Habur Areas in the Second Millennium BC*, Vol. 1: *Scribal Education and Scribal Traditions*, Studia Chaburensia 6, Harrassowitz Verlag, xiv plus 191 pages

2. 有松唯 (2016) 『帝国の基層: 西アジア領域国家形成過程の人類集団』東北大学出版会、379頁

3. 辻明日香 (2016) 『コプト聖人伝にみる十四世紀エジプト社会』山川歴史モノグラフ32、山川出版社、259頁

4. 柴田大輔 (編) (2014) 『月本昭男先生退職記念献呈論文集第3巻 楔形文字文化の世界』聖公会出版、vi+216頁

5. Hasegawa, S. (2012) *Aram and Israel during the Jehuite Dynasty*, Beihefte zur Zeitschrift für die alttestamentliche Wissenschaft 434, de Gruyter, 209 pages

6. 研究組織

(1) 研究代表者

柴田 大輔 (SHIBATA, Daisuke)
筑波大学・人文社会系・准教授
研究者番号: 40553293

(2) 研究分担者

河合 望 (KAWAI, Nozomu)
金沢大学・新学術創成研究機構・准教授
研究者番号: 00460056

津本 英利 (TSUMOTO, Hidetoshi)
古代オリエント博物館・研究部・研究員
研究者番号: 40553045

中町 信孝 (NAKAMACHI, Nobutaka)
甲南大学・文学部・教授
研究者番号: 70465384

長谷川 修一 (HASEGAWA, Shuichi)
立教大学・文学部・准教授
研究者番号: 70624609

(3) 連携研究者

青木 健 (AOKI, Takeshi)
慶應義塾大学・言語文化研究所・研究員
研究者番号: 50745362

有松 唯 (ARIMATSU, Yui)

東北大学・新領域創成研究部・助教
研究者番号: 60732112

上野 雅由樹 (UENO, Masayuki)

大阪市立大学・大学院文学研究科・准教授

研究者番号: 10709538

久米 正吾 (KUME, Shogo)

東京藝術大学・社会連携センター・特任講師

研究者番号: 30550777

嶋田 英晴 (SHIMADA, Hideharu)

東京大学・大学院人文社会系研究科・研究員

研究者番号: 90732868

下釜 和也 (SHIMOGAMA, Kazuya)

古代オリエント博物館・研究部・研究員
研究者番号: 70580116

鈴木 恵美 (SUZUKI, Emi)

早稲田大学・地域・地域間研究機構・主任研究員 [研究院准教授]

研究者番号: 00535437

高井 啓介 (TAKAI, Keisuke)

東京大学・大学院人文社会系研究科・研究員

研究者番号: 00573453

伊達 聖伸 (DATE, Kiyonobu)

上智大学・外国語学部・准教授
研究者番号: 90550004

辻 明日香 (TSUJI, Asuka)

川村学園女子大学・文学部・准教授
研究者番号: 60549509

(4) 研究協力者

亀谷 学 (KAMEYA, Manabu)

弘前大学・人文社会科学部・講師
研究者番号: 00586159

渡井 葉子 (WATAI, Yoko)

日本学術振興会・PD特別研究員
研究者番号: 40752382